

よろずは

平成二七年

十月号

歌碑めぐり 14

今回ご紹介する歌碑は、富山県高岡市内で最も古い歌碑です。
安政五年（一八五八）に建碑されました。

磯の上の都萬麻を見れば根を延へて年深からし
神さびにけり

（磯の上のつままを見ると逞しく根を張っていて、何年もたっているらしい。神々しいことだ。） 卷十九の四一五九番歌

この歌は天平勝宝二年（七五〇）三月九日、大伴家持が越中国司の勤めとして出挙のために国内を巡行した折、渋谿の崎（現在の高岡市澁谷、雨晴海岸）に生える「つまま」を詠んだものです。

「つまま」をクスノキ科タブノキに比定したのは宗九郎という人物で、今日ではほぼ定説となっています。宗九郎がタモノキとともにこの歌碑を建てたとされますが、後年に枯死したため樹木は代替わりし、碑文も風食によって判読しづらくなっています。【万葉古代学係】



※歌碑の背後にはタブノキが生えています

（富山県高岡市）

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。

※碑文にルビはありません

過澁谿崎見巖上樹歌一首
磯上之都萬麻乎見者根乎延而
年深有之神左備尔家里